

# 人世界が舞台

のまきこ  
お小野 麻紀子さん 36

働きながら子育てをする日本人女性を中心にした団体「はたらくママ@シンガポール」を運営する。約350人の女性が、子育てや仕事に関する情報や悩みの解決方法を持ち寄り、支え合う場だ。夫が友人の事業に参画するのを機に2010年末にシンガポールにきた。東京の人材派遣会社に勤めていた時、様々な働く女性たちと出会い、「結婚しても子供を産んでも好きな仕事をした」という思いを強くしていた。シンガ



## 働くママ 元気にしたい

ポールでも、まず通信系企業の営業の仕事を見つけた。並行して弱点だった英語力不足を補い、12年10月、人材派遣会社への転職を決めたその3日後、妊娠が分かった。シンガポールの出産や育児に関する制度がどうなっているのか、どんな保育園があるのか、いくらかかるのか、必要な情報を全く知らない。途方に

暮れていた時、働きながら子育てをしている「先輩」に出会った。一緒にランチをしながら、体験を聞き、悩みに共感してもらった。ようやく赤ちゃんを迎えることが「不安から楽しみに変わった」瞬間だった。自分と同じ悩みを抱えている人は少なくないはず。出産後の13年10月、友人らと3人

### ■ 情報交換や勉強会 350人結ぶ

1982年、新潟市生まれ。大学卒業後、2005年に都内の人材派遣会社に入社。10年に結婚し、シンガポールに移住した。18年4月には、ライフデザインコーチとして独立を果たした。子供は5歳と3歳の女児2人。

で「はたらくママ」を結成した。東京でシェアハウス暮らしをしていた時、同居人だけでなくその友人らが家に集い、目標の実現や悩みの解決にアイデアや人脈を持ち寄っていた。その時の経験の応用だ。

子育て情報を交換する集まりから始め、体験談を聞くイベント、起業や独立に関する勉強会など活動内容を広げている。インターネットサイト (<http://asia.hatanama->

world.com) やフェイスブックでも情報を発信する。会員のうち約30人が運営の中心を担っている。

シンガポールでは、就労ビザを持っている人の配偶者であれば、一定の条件のもと就労許可を得ることが出来る。改めて就労ビザをとる必要がない。フィリピン人を始めメイトも探しやすい。それでも、日本人女性の間には、働くことで子供の世話を十分にしたいと引け目を感じたり、他の人から普通ではないと見られることを恐れたりする心理的ハードルがあるという。伴走者のような存在が、別の物の見方があることを伝えてあげれば、ハードルを越えることができるのではないかと。「妻であり母であり、私であることを楽しめる女性を増やしたい」。「はたらくママ」をそんな場にした。 (シンガポール 幸内康、写真も)